

Ⅲ 普及活動事例

地域における普及活動の実績

【本所地域第1係】

課題番号1 輪作の推進と花き生産力の維持による持続可能な農業経営
～直播水稻の安定生産技術の実践に向けた普及活動～

対象：岩見沢市栗沢町 越前・自協地区農業者 22 戸

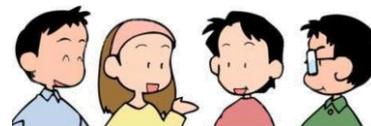
1 活動の背景

岩見沢市栗沢町越前・自協地区は、水稻・畑作を基幹としながら花き生産の盛んな地域である。秋まき小麦で立枯病等の連作障害が見られ、収量が不安定である。乾いたほ場に種籾をまく乾田直播水稻（以下、乾直）は、代かきをしないため排水性を維持でき、輪作が可能となる。そのため地域農業者は乾直に関心が高いものの、栽培事例が少なく、収量への不安があった。



2 活動の経過

輪作品目として乾直を取り入れてもらえるよう、栽培経験の少ない3戸を対象に、JA平均並収量の確保を目標に活動中。



(1) 活動体制

技術情報の発信や研修会開催についてJAと連携し取り組んだ。また、係内で役割分担し、実態調査や実証ほのデータ収集と解析、研修会での情報提供を行った。

(2) 生育調査と作業工程の聞き取りによる実態把握（令和3年）

①新規導入2戸を含む3戸を対象に苗立本数から収量性まで各種調査を実施。

②定期巡回で作業工程の聞き取りと「直まき10俵どり指南書 Vol.4」を指標に基本技術を提案。

③農業者聞き取りと実態調査結果から安定生産には、苗立本数180～230本/㎡の確保が重要。



図1 地域指標の「直まき10俵どり指南書 Vol.4」

④苗立本数の確保には、ほ場準備や適正は種を行うこと、生育の安定には適正施肥管理が必要なことを再認識。

(3) 安定生産技術の選定と実証ほの展示（令和4年）

- ①安定生産技術としては場準備、適正は種、適正施肥管理（表1）を提案。
- ②土壌分析結果に基づく施肥設計相談、は種巡回で砕土率やは種量の調整を提案。
- ③JA営農指導員とともに生育調査を実施。
- ④調査データは速やかに農業者と共有。提案した安定生産技術の感想を聞き取り。

表1 対象農業者の取組状況

安定生産技術	評価基準	A氏	B氏	C氏
ほ場準備	粗耕起（チゼルプラ）	有無	×	○
	心土破砕	有無	○	○
	均平	有無	○	○
	砕土率	2cm以下70%	○	○
適正は種	は種量(kg/10a)	10.5~13.5	○	○
	は種日	~5/15	○	○
適正施肥管理	土壌診断	有無	○	○
	基肥施肥量	施肥設計を基準	○	○
	施肥設計と生育に応じた追肥判断	有無	○	○



写真1 農業者と苗立調査

(4) 現地研修会で地域へ乾直をPR

- ①現地研修会(写真2)を開催。
- ②3戸の実証ほの生育を実際に観察してもらい乾直への理解を深めてもらえる場とした。

＜農業者の声＞

- 「苗立本数確保には砕土率が重要」
- 「倒伏対策が重要。来年はは種量を減らす」
- 「ほ場ごとに適した施肥管理が必要」



写真2 現地研修会での情報提供

3 成果の具体的内容

(1) 生産性向上

- ①収量はJA平均 661kg/10a を上回る 679kg/10a を確保。この結果から3戸は次年度実施面積を拡大意向。
- ②農業者からは「指導通りやったらしっかり穫れた」のコメントをいただいた。



写真3 稲の収穫判断

(2) 地域への波及

実証ほを用いた現地研修会で、越前・自協地区でも乾直の安定生産が可能であることを周知したことや、栽培技術の不安に対する情報提供を継続したことで、令和5年から導入農業者が5戸増加する予定。

4 今後の課題と対応

新たに乾直導入の意向を示している5戸に対し、生育収量実績とともに安定生産技術の情報を発信し、実践を促していく。